

ふるさと住民登録制度説明会 特別対談

関係人口は、みんなでつくる

～制度を道具に変え、地域の未来を作る方法～



Code for Japan 代表理事

関 治之氏



面白法人カヤックちいき資本主義事業部 執行役員

中島 みき氏

自己紹介

関 治之

Twitter: hal_sk
シビックハッカー
オープンソース好きなエンジニア

所属

- 一般社団法人コード・フォー・ジャパン 代表理事
- デジタル庁 シニアエキスパート（シビックテック）
- 株式会社HackCamp CEO
- 株式会社Geolonia 取締役 公共政策担当

他

- 東京都チーフ・デジタル・フェロー
- 浜松市 フェロー
- 岡山県西粟倉村 最高情報戦略監(チーフ・インフォメーション・オフィサー)
- 山口県 CIO補佐官
- 香川県 かがわDX Labフェロー
- 大阪府枚方市 DXフェロー
- 三重県 みえDXアドバイザー
- 総務省 地域情報化アドバイザー
- デジタル庁 オープンデータ伝道師



今日の見取り図

今日、お伝えしたい3つのこと

1

**「なぜやるのか」
から始める**

登録者数より先に、地域のWHYを。

2

**関係人口は地域の
みんなでつくるもの**

主役は国ではなく地域。

3

**抱え込まず、
小さく始める**

行政だけでやらない。一歩から。

※ アプリの完成を待たずとも、今できることがあります。

SECTION 1

WHYなき制度は 動かない

「仕組みを整えること」と「関係をつくること」は別物。



事例

西栗倉・むらまるごと研究所のはじまり

役場、村民、移住者、これまで活動に関わってきた人、様々な人を呼んでビジョン作りのワークショップを実施



出典：むらまるごと研究所 note：むらボのVISION



出発点

「登録の仕組み」ではなく
「関わりたくなる関係」

WHYの核心

「課題解決」では、人は集まらない

「地域課題を解決しよう」だけでは、人は動きにくい。
“不思議”や“好奇心”こそが、人を惹きつける。



テクノロジーや制度は、課題解決の手段というより「好奇心を引き出す仕掛け」にできる

仕組みを整える

アプリに登録者を集める

≠

関係をつくる

一緒に面白がる“仲間”ができる

問い うちの地域は、誰に・何を面白がってほしくて“ふるさと住民”を募るのか？

SECTION 2

関係人口は地域の みんなでつくるもの

制度を目的化しない。地域のやりたいことの「手段」に置く。



捉え方

主役は「お上」ではなく、地域



住民票を移さない制度

= 国が住民を“管理”する制度ではない。地域が“仲間”とつながるための道具。



既存のしくみと融合させる

移住定住・観光・地域おこし協力隊… を否定せず、つなげる方が長続きする。



制度を目的化しない

「制度に参画する」が目的ではなく、地域のやりたいことの手段に置く。



**制度の主役は
地域の人。**

国の制度は、その背中を押す
枠組み。

捉え方

参加の梯子と「エンゲージメント」

エンゲージメントは、情報提供・意見聴取のレベルが当然にクリアされるべきもの

1	2	3
情報提供 Information	意見聴取 Consultation	エンゲージメント Engagement
● 一方通行の関係 ● 能動的な情報発信と オンデマンドでの 情報提供	● 双方向の関係 ● 情報の提供に加え、 結果のフィードバック	● 政策サイクルすべての 段階におけるステー クホルダーとの協働 ● 必要な資源の付与

OECD「オープンガバメントに関する理事会勧告」（2017年）より作成
<https://legalinstruments.oecd.org/en/instruments/OECD-LEGAL-0438>

捉え方

エンゲージメントについて . . .

- 社会参加分野
コミュニティや社会への関わりの尺度



市民エンゲージメント

「市民参加」のニュアンスよりも、政府部門がそうした状態になるように主体的に行動する意味合い が込められている

Decidimについて

Decidimは、「我々で決める」を意味するカタルーニャ語にちなんで、2016年にバルセロナで誕生したオープンソースの参加型合意形成プラットフォームです。

ボトムアップの参加をオンラインでサポート

バルセロナから世界各地に広がり、スペイン、フィンランド、台湾などをはじめとして180以上の組織、32万ユーザー、160以上のプロジェクトが立ち上がっています。

日本における展開

日本においては、2020年10月に兵庫県加古川市で初めて導入され、現在では国・自治体・民間部門での活用がはじまっています。

<https://decidim.org/ja/>



オンラインデモ



<https://meta.diycities.jp/assemblies/hereandthere>

パブリックコメントのアップデート

パブリックコメントに追加する形で、市民同士・市民一自治体のコミュニケーションの場として運用

(例)兵庫県加古川市

- 

経済産業省
自衛隊

経済産業省
自衛隊

経済産業省
自衛隊

経済産業省
自衛隊

ホーム

経済産業省

自衛隊

あなたのアイデアが社会を変える！
横浜の未来に向けた政策を
一緒に創っていきましょう！

これまで多くの横浜の未来を築き、発展し、横浜の発展の一助としてきた
みなさんは、みなさん一人ひとりに期待を。そして、みなさん一人ひとりに
第一歩はみなさん一人ひとりに期待を！「横浜の未来に向けた政策を一緒に創っていきましょう！」
2020年

みなさん一人ひとりに期待を！「横浜の未来に向けた政策を一緒に創っていきましょう！」
2020年

横浜の未来に向けた政策を一緒に創っていきましょう！
2020年

今、雷や猛暑などの異常気象が世界中で多発しています。こうした異常気象は、自然災害となるだけでなく、生態系や私たちの健康にも影響する深刻な問題であり、それは「気候変動」だけでなく「気候危機」とも呼ばれています。

気候変動は、産業革命以降人間活動に伴って排出される温室効果ガス（主に二酸化炭素）の量が増大したことによる地球温暖化が要因とされていることから、「温室効果ガスの排出量を世界全体で実質ゼロにする」という気候変動の潮流が世界的に加速しています。

日本のDecidim事例

<https://meta.diycities.jp/assemblies/hereandthere>

官民間問わず幅広い分野でのコミュニケーションプラットフォームとしての活用がはじまっています。

ボトムアップでの特徴あるアプローチ

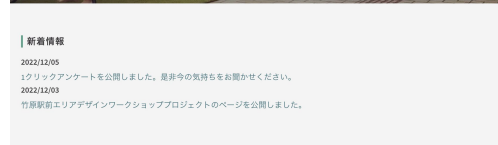
- 公共空間等のプレイスメイキング

まちの広場や公園などの公共空間等について、管理者と参加者が利用ルールの整備・活用を協働して行う

まちの公園・広場



歩きやすい駅前



SECTION 3

明日から、 何をするか

壮大な計画より、具体的な「最初の一步」。



HOW ①

まず立てる、3つの問い



誰に

来てほしいのか

ターゲットを具体的に思い描く



何のために

地域側のWHY

迎えることで何を実現したいか



誰と

一緒につくるのか

住民・民間・地域団体を巻き込む

この順番で考えると、必要な打ち手（イベント・発信・仕組み）が見えてくる。

HOW ②

ツールを選ぶ前に、「対話の設計」を

加古川市では、参加型プラットフォーム（Decidim）を導入する前に、まず“誰と・何を話すか”の設計があった。



順番が逆（ツールありき）だと、形だけになって続かない。



アプリは“最後の道具”

先に、関係と目的を。

HOW ③

行政だけで、抱え込まない

- 「人手が足りない」を、一人で背負わない
- 地域には既にキーパーソンや活動がある（子ども食堂、里山の担い手、地元事業者…）
- 「うちにはいない」という思い込みを外して、足元を見る
- 観光・移住・協力隊… の縦割りを超えて、組織横断で取り組む



受け皿の多様さ

多様な“受け皿”が、
多様な関係人口を生む。

運用の視点

登録者数の、その先へ



登録者数だけを追う

数は増えても、関わりが生まれず、
担当者が変わると途切れてしまう。



“関わり・貢献”が見える状態

一人ひとりの関わりが見えると、
関係が自走しはじめる。

アプリの先にある“運用”こそ本番。
担当者が異動しても、関係が続く設計を。

壮大な計画は、いりません。



まずは、この地域と一緒に面白がってくれる仲間を、
一人見つけるところから。

制度は道具です。使うのは、地域のみなさんです。